

## 「ペトロの否認」と目撃者の歴史学

大谷 哲

クリスチャンでもないのに、初期キリスト教の歴史を研究テーマと定めて生業としていることに、時々ちょっとしたうしろめたさを感じる時があります。そんな信仰心のない私が聖書の中で一番好きな場面である、マルコ福音書14章のペトロが、イエスの弟子であることを否定する箇所を取り上げたいと思います。なぜならこの箇所は、歴史学史料として聖書テキストを分析する重要な視点を提供すると同時に、信仰共同体としての教会の文書として扱われる福音書の持つ力を、私にも教えてくれる気がするからです。それでは、キリスト教徒にはとても有名な「ペトロの否認」の場面を、マルコ福音書第14章より。

最後の晩餐の後、ゲッセマネからイエスを連行していく人々にこっそりについて行き、大祭司の屋敷で下役たちと火にあたっていたペトロを一人の女中が見とがめます。

ペトロが下の中庭にいたとき、大祭司に仕える女中の一人が来て、ペトロが火にあたっているのを目にすると、じっと見つめて言った。「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた。」しかし、ペトロは打ち消して、「あなたが何のことを言っているのか、わたしには分からないし、見当もつかない」と言った。そして、出口の方へ出ていくと、鶏が鳴いた。女中はペトロを見て、周りの人々に、「この人は、あの人たちの仲間です」とまた言い出した。ペトロは、再び打ち消した。しばらくして、今度は、居合わせた人々がペトロに言った。「確かに、お前はあの連中の仲間だ。ガリラヤの者だから。」すると、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「あなたがたの言っているそんな人は知らない」と誓い始めた。するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣き出した。(新共同訳、マルコ福音書14章66-72節)

イエスと共に裁かれることを恐れてか、ペトロは呪いの言葉さえ吐きながら、イエスの弟子であることを否定してしまいます。そしてペトロは二度目の鶏の鳴き声で、マルコ福音書14章30節でなされた、「あなたは、今日、今夜、鶏が二度鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう」という予言が成就したことを思い知るのである。イエスのこの予言に対しペトロは、「たとえ、ご一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどは決して申しません」と力強く断言していたにも関わらず、です。

命惜しさにイエスを裏切ってしまったペトロの後悔の涙は、何度読んでもキリスト者でない私の胸にも迫ります。しかしここでは、聖書をも歴史史料として考察すべきであるという、歴史学者としての私の立場からこの箇所を解釈したいと思います。

しばしばイエスの弟子たち、そしてその筆頭であるペトロに対して厳しい執筆態度だと指摘されるマルコですが、この箇所は実際の出来事であったことを疑う必要は無いと言えるでしょう。マルコ福音書執筆時期はまだ第一世代の弟子たちについての証言者が複数生き残っていたと想定でき、もし教会の指導者についてのこの印象深い出来事が根拠なき作り話であれば、そのような記事が生き残るのは困難ではないでしょうか。ペトロの否認譚は第一世代の弟子たちから伝承されてきたと私は考えます。

『イエスとその目撃者たち』（浅野淳博訳、新教出版社2011年）を著した新約聖書学者リチャード・ボウカムは、聖書に記された事件について考えるとき、いったい誰がその事件を目撃していたかに注意を払う重要さを指摘しています。まさにこのペトロの否認を考えるとき、私たちは誰がこのペトロの裏切りを目撃し、マルコ福音書に収録される伝承として証言したのかを問わねばなりません。ペトロを見とがめた女中でしょうか。イエスを捕縛したユダヤ大祭司の下役たちでしょうか。そうではないでしょう。

イエス処刑に絶望し、しかしイエス復活を述べ伝えるため集った人々にこの顛末を伝えたと想定できる関係者は、元来イエスに付き従っていた人々と考えるべきでしょう。しかしマルコ福音書14章50節ははっきりと、イエスの捕縛後、「弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった」と述べています。

つまりペトロの否認を他の弟子たちに伝える証言者は、ペトロその人しかいないのです。

そして、この聖書箇所について最も注意を促したいのは、たとえイエスの予言の成就を伝えるためであっても、イエスを裏切って否定したという重苦しい過ちをペトロは自ら仲間たちに打ち明けたのであり、また仲間たちはそんなペトロを仲間として受け入れたということです。私が強調したいのは、教会に最初期から見られる、仲間の過ちを許し、受け入れるその姿勢です。

実はペトロのほかに、同じくイエスに付き従い損ねた人物がいます。マルコ14章51-52節で証言される、名前のわからない、亜麻布をまとっていた若者です。彼は逮捕されそうになって、亜麻布を捨てて裸で逃げています。一種の滑稽さすら漂わせるこのエピソードも、この裸で逃げた若者が自ら仲間語るなければ、やはり福音書に記録されることはなかったでしょう。イエスに付き従い切れなかった裸で逃げた若者も、そのことを自ら打ち明け、また受け入れられたのです。

亜麻布の若者も、そもそもイエス逮捕の際逃げ出して戻っても来なかった他の弟子たちも、等しくイエスと同じ運命を被ることから一度逃げ出している弱みがあるかもしれません。しかし、ペトロはあれほど力強くイエスに付き従うことを宣言しながら、呪い、誓いの言葉でイエスを否定しています。けれども、繰り返しになりますが、ペトロがそんな最大級の過ちを告白することができたのが、最初期の弟子の群れであったのです。

否信仰者、いわば部外者でありながら、私は教会というものを思い浮かべるとき、こうしてペトロの過ちを許した、誰かの苦しみを理解する優しい人の群れを思います。はっきり言って、イエスの死後の弟子たちの活動を示す使徒行伝、あるいは真偽いずれものパウロ書簡やその他の聖書史料を読めば、初期教会にいかにも激しい内ゲバが渦巻いていたかがたちどころにわかります。しかし、だからこそ、自らの過ちを告白したであろうペトロの振る舞いと、彼を受け入れた仲間たちの姿を、歴史のなかで埋もれさせないでおきたいのです。

(東海大学文学部歴史学科西洋史専攻講師)

# 東海史學

## 第 53 号

2018年度東海大学史学会大会 公開講演録

5世紀の倭国と東アジア……………鈴木 靖民 1

研究余滴

「ペトロの否認」と目撃者の歴史学……………大谷 哲 23

論文

鉄のおもりと刃の普及—神奈川県出土の古代・中世の権衡遺物から—……………葉山 茂英 25

1791年憲法体制下におけるフランス北部の市民構成

—ノール県とパ＝ド＝カレ県における「受動市民」数の再検討を中心として—……………中島 幹人 45

史料翻訳・註解

著者不明『スフランツィス抜粋年代記』—翻訳、註釈と解説—……………平野 智洋 63

史料紹介

大谷光瑞の書・入手拓本と歐陽詢……………片山 章雄 81

彙報……………87

論文

治承・寿永の内乱と鎌倉幕府地頭制度……………三田 武繁 (1)

研究ノート

『延喜式』の醬……………畑中 彩子 (21)

東海大学史学会

2019年3月